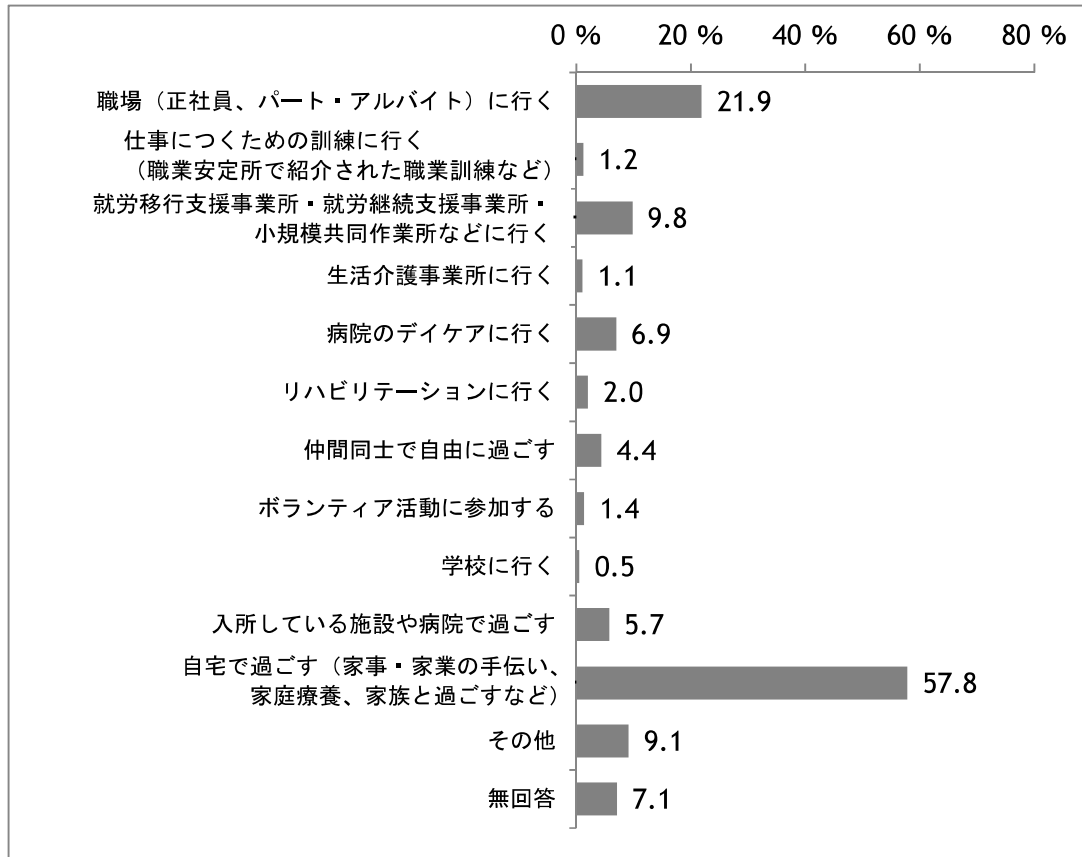


③ 精神障害者

精神障害者では「自宅で過ごす」人が多いが、「職場に行く」も2割程度みられる。

〈複数回答〉(n=735)



「その他」の具体例

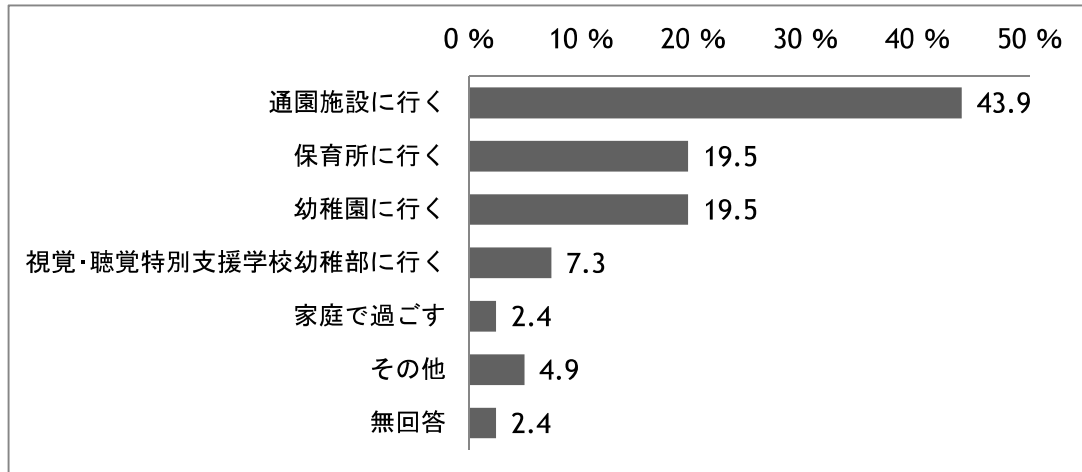
- 休日は趣味などに没頭している
- 教会に週に2回行っている
- グループホームで過ごしている
- 講演会になるべく行く、読書
- 散歩、月に1~2回友人と会う
- 知り合いの手伝い
- 地域支援活動センター
- 月一回句会に参加、散歩
- つりに行く
- 定期的に病院にかよい検査や、薬を取りに行っています
- 図書館へ行く
- なるべく人と会うよう知人の元へ行く
- パソコン教室に行ったり、図書館に行く、ヨガ等
- ハローワークに行っている（週に2~3回）
- 一人でボーっと過ごす

④ 障害児

就学前の障害児は通園施設で過ごす人が約半数を占める。就学中は特別支援学校が半数程度を占めているが、特別支援学級で過ごす人も3割強いる。

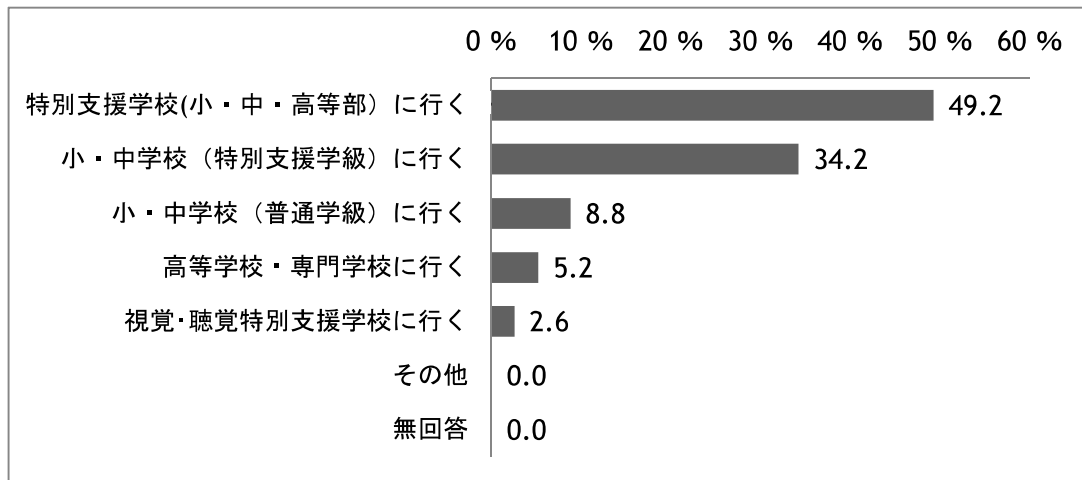
【就学前】

(n=41)



【就学中】

(n=193)



【学校を卒業した方】

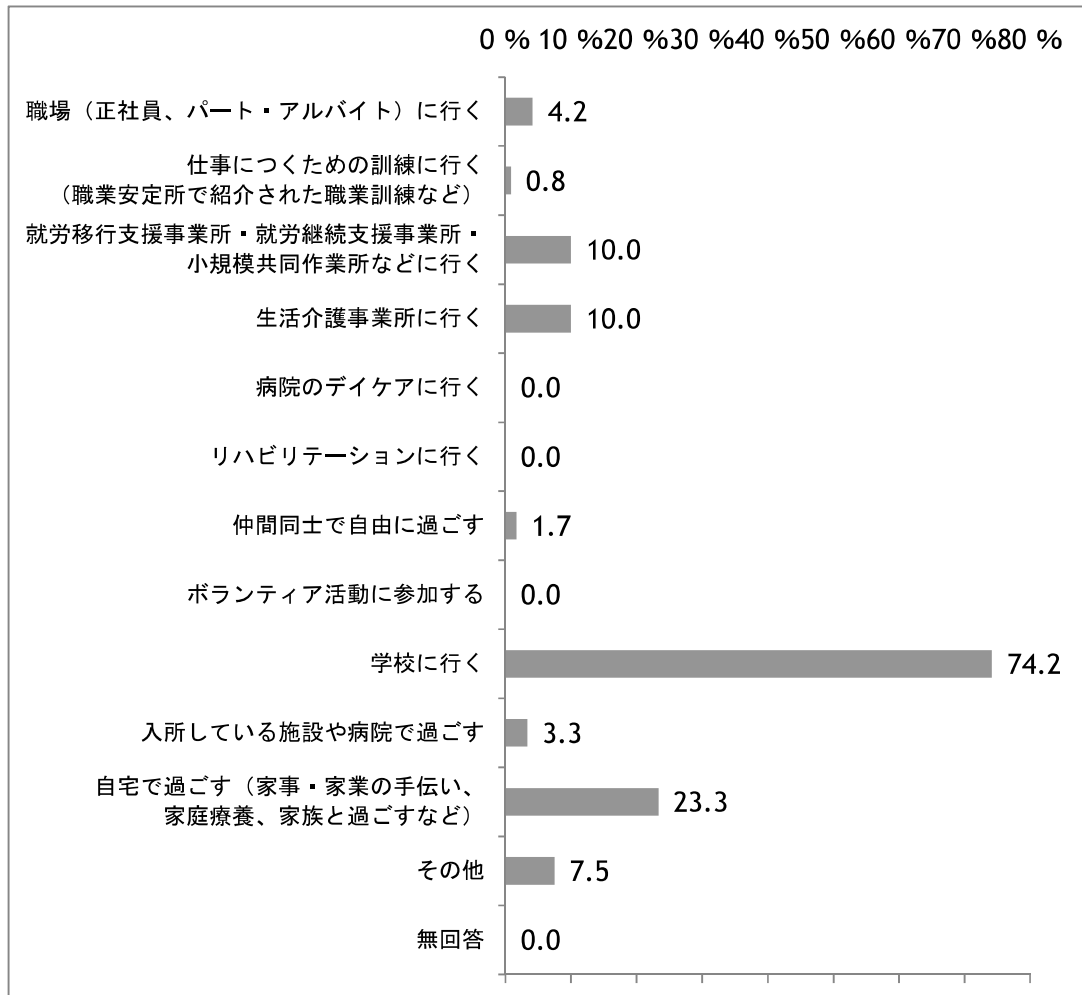
〈複数回答〉(n=3)(人)

内容	実数
ボランティア活動に参加する	1
仕事につくための訓練に行く(職業安定所で紹介された職業訓練など)	1
仲間同士で自由に過ごす	1
自宅で過ごす(家事・家業の手伝い、家庭療養、家族と過ごすなど)	3
職場(正社員、パート・アルバイト)に行く	3

⑤ 発達障害者

発達障害者では就学中の人が多く、23%程度の方は自宅で過ごしている。

〈複数回答〉(n=120)



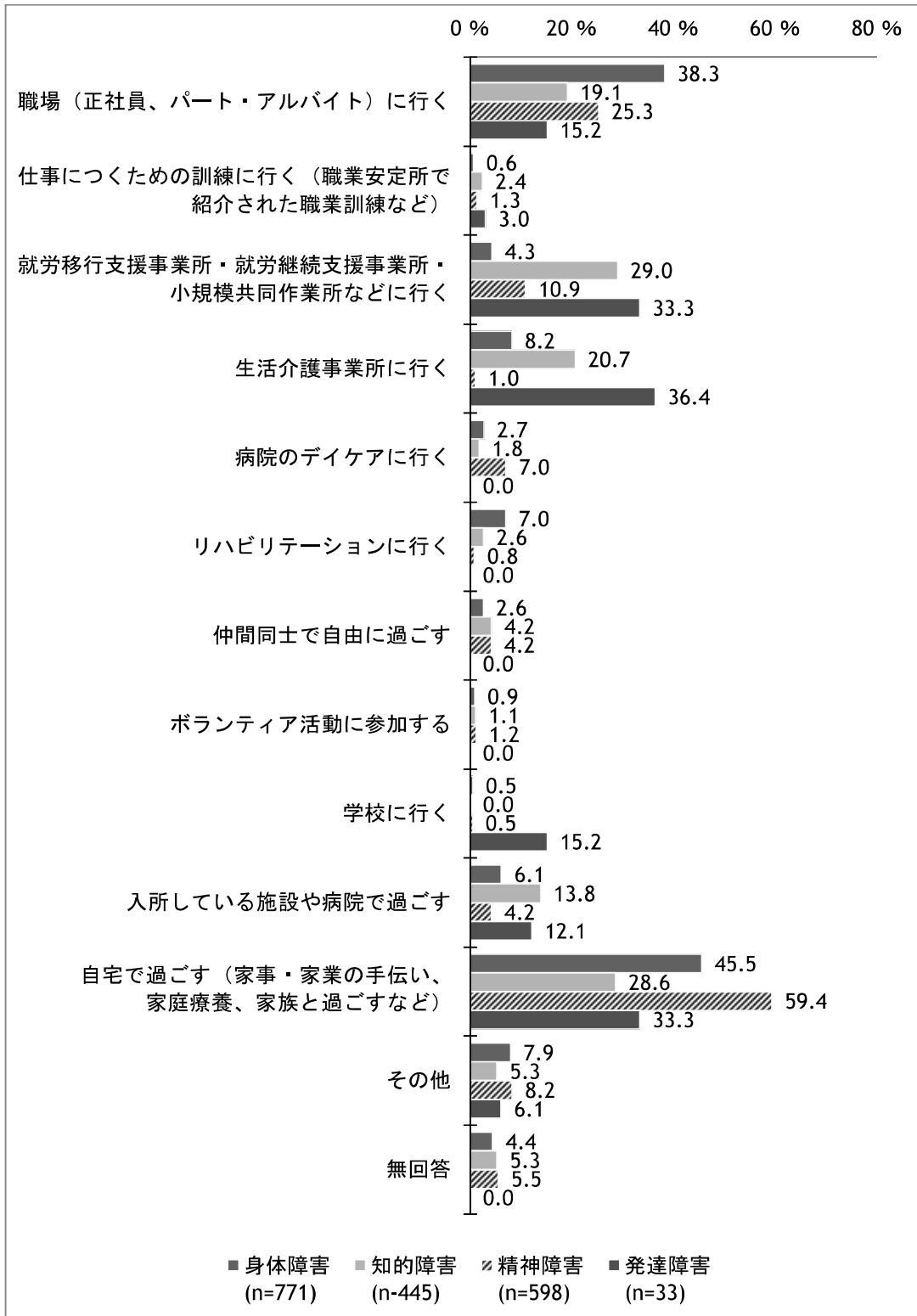
「その他」の具体例

- 児童発達支援センター
- デイサービス
- 塾
- 放課後デイサービス

10) 日中の過ごし方（18～64歳）

18～64歳に限定した場合も、多くが日中自宅で過ごすことが多い。特に精神障害者は自宅で過ごす人が6割程度と多い。

〈複数回答〉

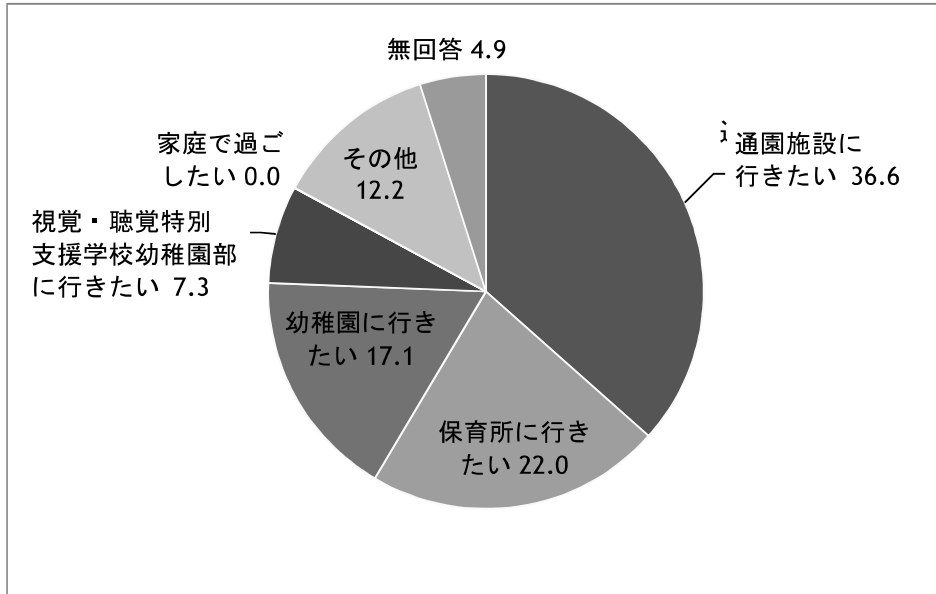


1 1) 希望する今後の日中の過ごし方（障害児のみ）

就学中の児童の場合は普通学級よりも特別支援学校を希望する傾向が強かった。

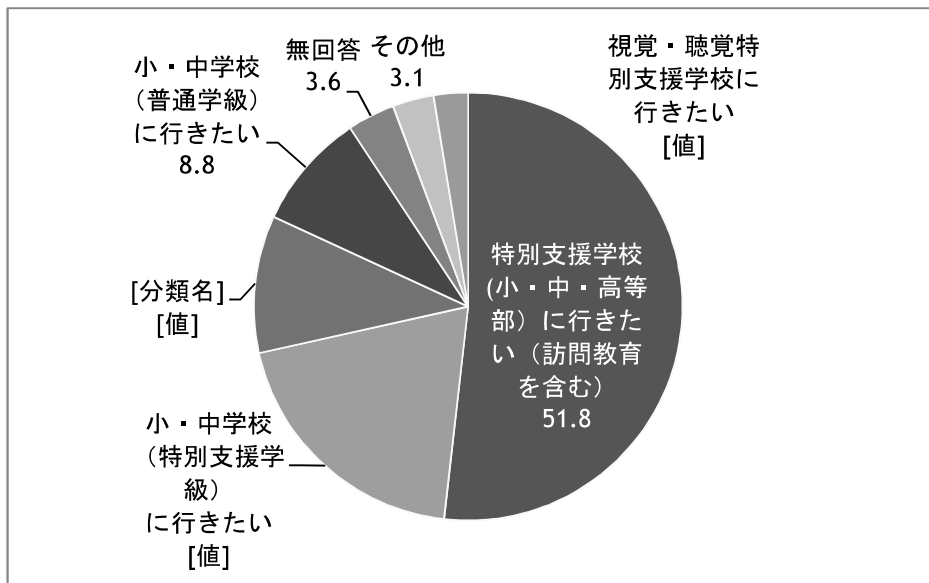
①就学前

(n=41) (%)



②就学中

(n=193) (%)



③学校を卒業した方

内容	実数(人)
職場（正社員、パート・アルバイト）に行きたい	2
仕事につくための訓練に行きたい（職業安定所で紹介された職業訓練など）	1

12) 地域で生活していくために必要な支援

地域生活を送る上で必要なこととして、「緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制」や「経済的な負担の軽減」「家族の負担軽減」という回答が多くなっている。

〈複数回答〉

	身体障害者 (n=1284)	知的障害者 (n=543)	精神障害者 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害者 (n=120)	難病患者 (n=89)
1位	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (38.2%)	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (53.2%)	経済的な負担の軽減 (42.0%)	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (63.7%)	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (75.0%)	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (43.8%)
2位	経済的な負担の軽減 (32.6%)	経済的な負担の軽減 (35.9%)	緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制 (38.8%)	経済的な負担の軽減 (51.9%)	生活訓練や就労支援 (48.3%)	経済的な負担の軽減 (42.7%)
3位	家族の負担軽減 (27.5%)	家族の負担軽減 (30.9%)	家族の負担軽減 (27.5%)	生活訓練や就労支援 (51.9%)	家族の負担軽減 (46.7%)	家族の負担軽減 (40.4%)
4位	在宅でも適切な医療ケアなどが得られるような支援 (21.3%)	障害者に適した住居の確保 (23.4%)	生活訓練や就労支援 (16.5%)	家族の負担軽減 (50.6%)	経済的な負担の軽減 (43.3%)	在宅でも適切な医療ケアなどが得られるような支援 (38.2%)
5位	障害者に適した住居の確保 (19.8%)	生活訓練や就労支援 (21.7%)	特に必要ない (15.1%)	地域住民等の理解と交流の場の確保 (30.8%)	地域住民等の理解と交流の場の確保 (33.3%)	生活訓練や就労支援 (19.1%)
6位	必要な在宅サービスの確保 (17.4%)	必要な在宅サービスの確保 (20.4%)	わからない (14.7%)	障害者に適した住居の確保 (26.2%)	必要な在宅サービスの確保 (23.3%)	必要な在宅サービスの確保 (19.1%)

「その他」の具体例 ■買い物や家事などの生活支援 ■経済的自立（就労） ■家族の理解  
 ■外出・移動の支援 ■身近な相談支援 ■障害者への理解

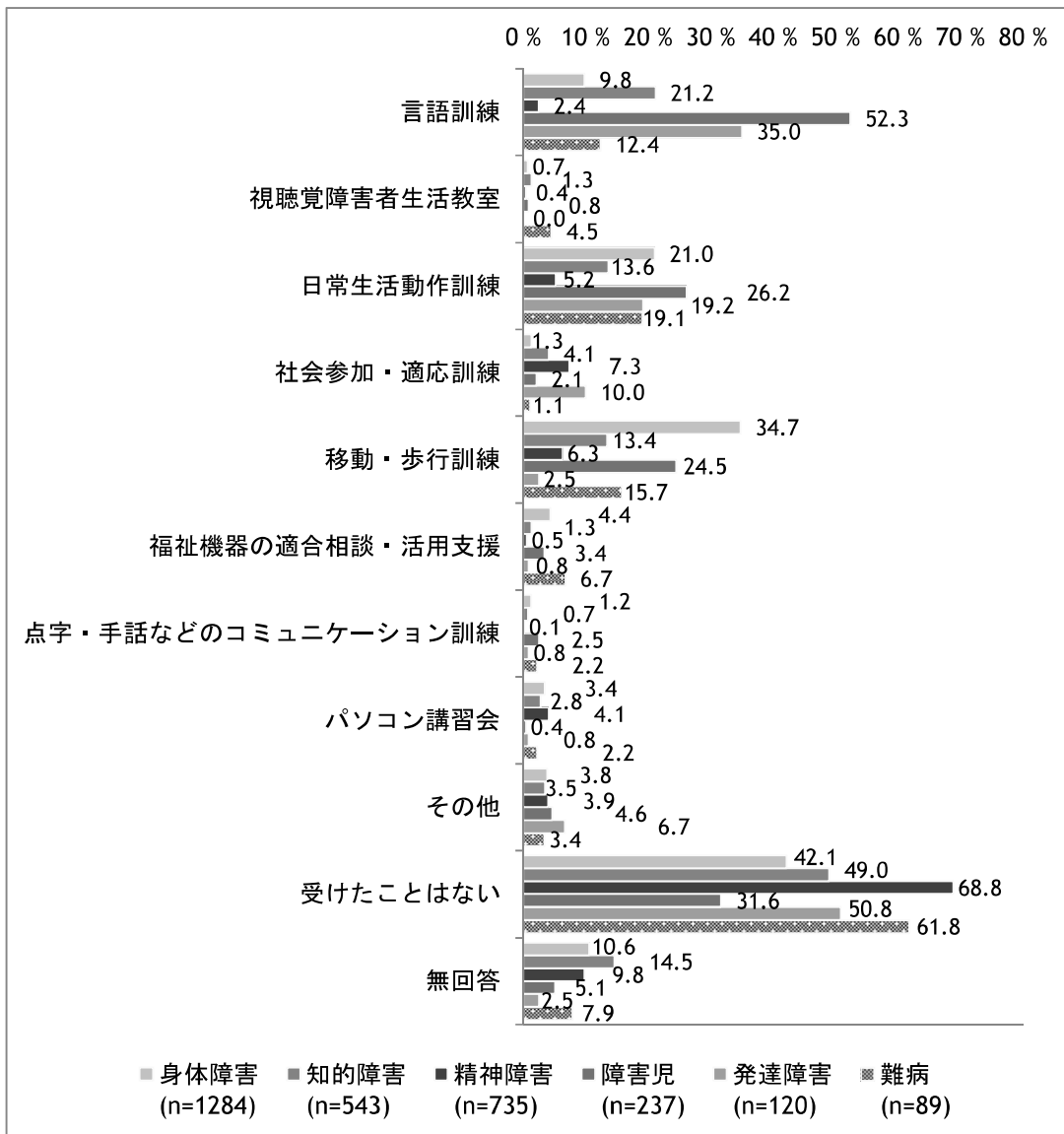
## 第2節 支援体制と障害福祉サービス

### 1. リハビリ・訓練などの支援について

リハビリテーションや訓練を受けたことのある回答者の割合は、全体的に少ない傾向にあるが、障害児の52.3%が「言語訓練」を受けている。また、身体障害者の34.7%が「移動・歩行訓練」を受けている。今後受けたいリハビリテーションや訓練としては、障害児は「言語訓練」のほか、「日常生活動作訓練」「社会参加・適応訓練」等を挙げている。

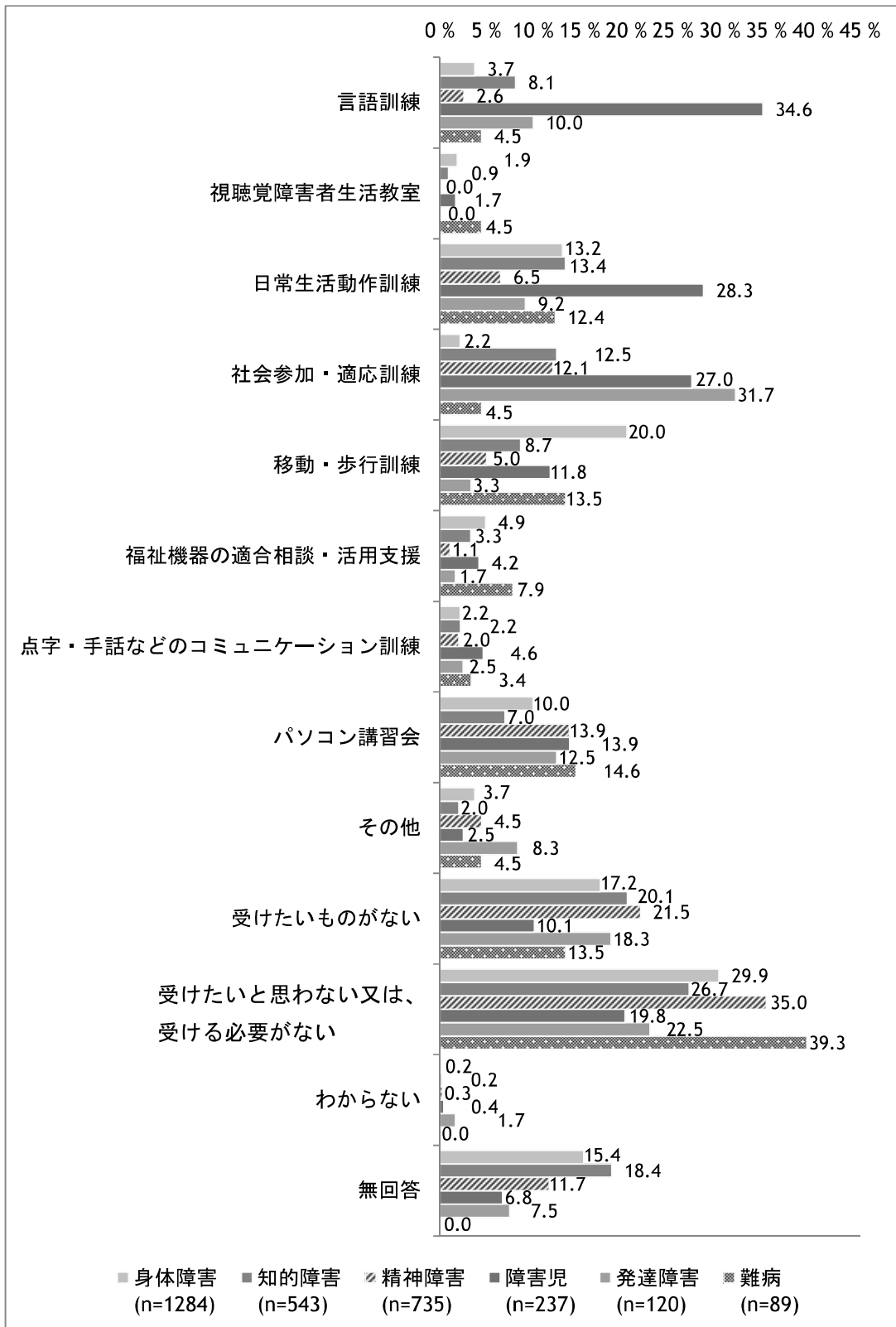
#### 1) これまで受けた訓練・リハビリテーション

〈複数回答〉



2) 今後受けてたい訓練・リハビリテーション

今後受けてたいリハビリテーションや訓練としては、障害児は「言語訓練」のほか、「日常生活動作訓練」「社会参加・適応訓練」等を挙げている。 〈複数回答〉





## 2. 生活に関する悩みなどの相談について

いずれの障害種も、生活に関する悩み・不安の相談相手としては、「家族や親せき」を挙げている。続いて多かった相談相手は、「友人・知人」のほか「施設や事業所の職員」、「通院している医療機関の職員」が多く、また、障害児、発達障害者では「通園施設や学校などの先生」も多くなっている。実際に利用したことのある相談機関としては、いずれの障害種も約2割が「区役所の相談窓口」を利用しており、障害児と発達障害者では、約6割が「総合療育センター」を利用している。身体障害者と精神障害者、難病患者については、特定の相談機関を利用していないことが推察された。

「相談機関に必要なこと」として、精神障害者や障害児の間で「相談したい内容についての専門的な知識や技術」「問題解決まで相談にのってくれる体制」という回答が多くなっている。

### 1) 生活に関する悩み・不安の相談相手

〈複数回答〉

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
1位	家族や親せき (59.8%)	家族や親せき (52.9%)	家族や親せき (58.4%)	家族や親せき (70.5%)	家族や親せき (76.7%)	家族や親せき (69.7%)
2位	友人・知人 (22.4%)	施設や事業所の職員 (37.2%)	通院している医療機関の職員 (32.1%)	通園施設や学校などの先生 (46.4%)	通園施設や学校などの先生 (24.2%)	友人・知人 (32.6%)
3位	施設や事業所の職員 (12.9%)	友人・知人 (13.6%)	友人・知人 (26.4%)	友人・知人 (36.3%)	施設や事業所の職員 (20.8%)	通院している医療機関の職員 (19.1%)
4位	通院している医療機関の職員 (10.4%)	相談支援事業所（相談支援専門員） (10.5%)	施設や事業所の職員 (12.5%)	施設や事業所の職員 (27.8%)	友人・知人 (16.7%)	障害者団体や家族会 (12.4%)
5位	行政の相談窓口 (4.0%)	通院している医療機関の職員 (7.6%)	行政の相談窓口 (4.9%)	通院している医療機関の職員 (16.5%)	通院している医療機関の職員 (9.2%)	職場の上司や同僚 (6.7%)

〈参考〉	相談しない (11.8%)	相談しない (11.8%)			相談しない (10.8%)	相談しない (7.9%)
	相談できる人がいない (5.7%)		相談できる人がいない (9.5%)			

## 2) 利用したことのある相談機関

実際に利用したことのある相談機関としては、いずれの障害種も約2割が「区役所の相談窓口」を利用していたが、身体障害者と精神障害者、難病患者については、特定の相談窓口を利用していないことが推察された。

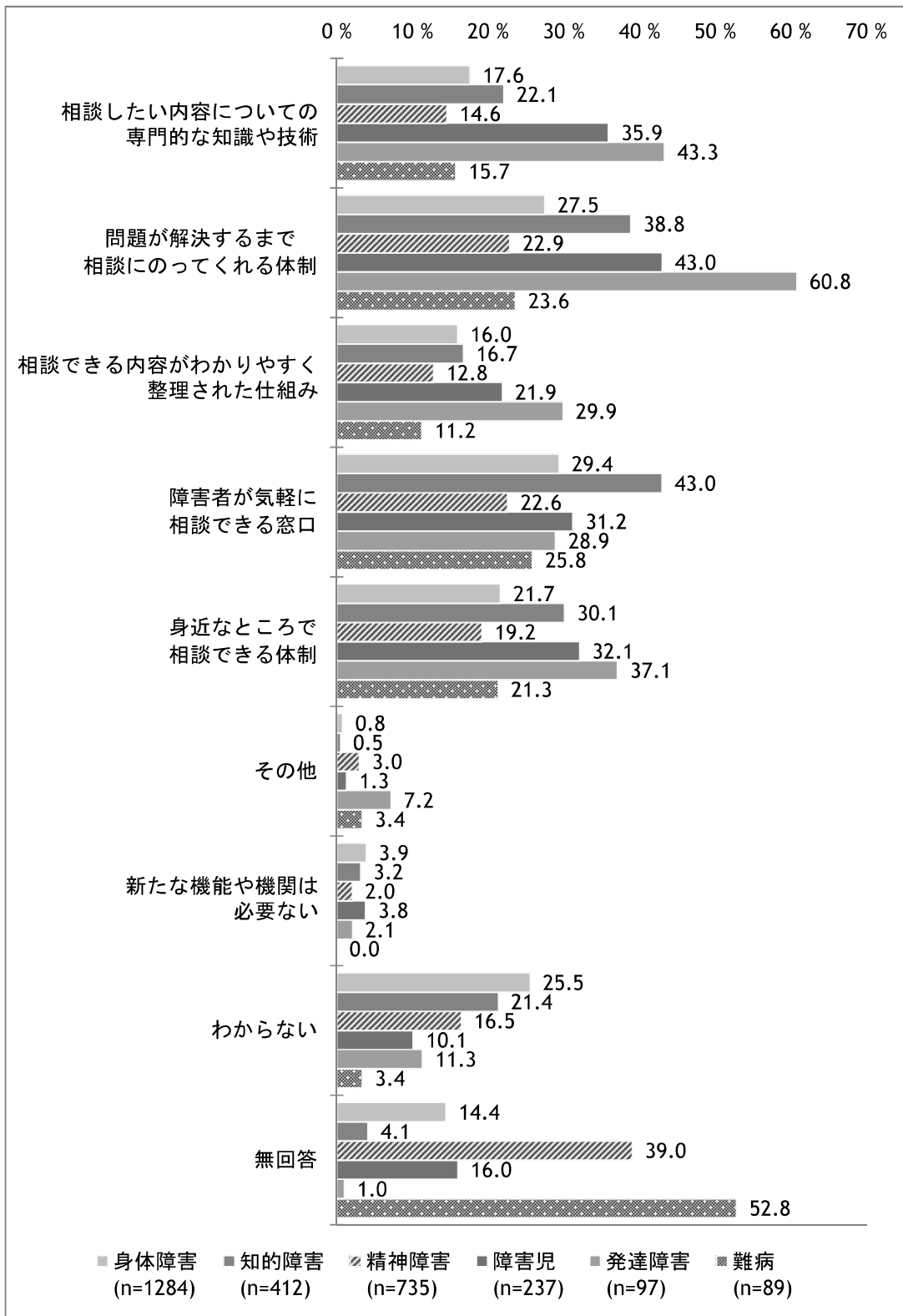
〈複数回答〉(%)

	身体 障害 (n=1284)	知的 障害 (n=543)	精神 障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達 障害 (n=120)	難病 (n=89)
区役所の相談窓口	23.6	24.7	22.4	21.9	15.8	19.1
障害者基幹相談支援センター	1.9	5.3	2.7	0.8	5.8	3.4
子ども総合センター	0.2	3.5	1.0	28.7	23.3	0.0
福祉用具プラザ北九州	2.1	1.1	0.3	1.7	0.8	11.2
総合療育センター (地域支援室を含む)	3.6	22.1	3.0	65.0	58.3	2.2
精神保健福祉センター	0.5	0.9	5.6	0.0	0.0	1.1
発達障害者支援センター 「つばさ」	0.2	5.5	3.5	8.0	34.2	0.0
特別支援教育相談センター	0.2	2.2	0.1	7.2	19.2	0.0
北九州障害者しごとサポート センター	1.1	6.1	3.4	0.0	0.8	1.1
ハローワーク	6.9	5.3	9.8	0.4	0.8	11.2
東部・西部障害者福祉会館	1.2	1.5	0.1	0.8	0.8	1.1
民生委員・児童委員	1.4	1.1	1.6	0.0	0.0	2.2
身体・知的障害者相談員	0.6	3.5	0.5	1.7	0.0	1.1
権利擁護・市民後見センター 「らいと」	0.1	0.9	0.3	0.0	0.0	0.0
相談支援事業所 (相談支援専門員)	4.6	13.1	4.6	8.0	10.8	1.1
障害者差別解消相談コーナー	0.1	0.4	0.3	0.0	0.0	1.1
北九州市社会福祉協議会	1.6	0.7	1.4	0.0	0.0	1.1
市コールセンター、いのちの 電話などの電話相談	0.9	0.6	3.7	0.8	0.8	2.2
ピアカウンセリングを 実施している相談機関	0.5	0.4	0.7	0.0	0.8	0.0
その他	4.5	4.1	6.8	5.5	12.5	5.6
相談機関を利用したことは ない	44.9	26.2	42.7	17.3	17.5	47.2
無回答	17.6	17.7	14.1	3.0	1.7	18.0

「その他」の具体例 ■学校 ■かかりつけの病院 ■聴覚障害者情報センター ■障害者団体

### 3) 相談機関に必要なこと

障害児や発達障害者の中で「相談したい内容についての専門的な知識や技術」「問題解決まで相談にのってくれる体制」という回答が多かった。 〈複数回答〉



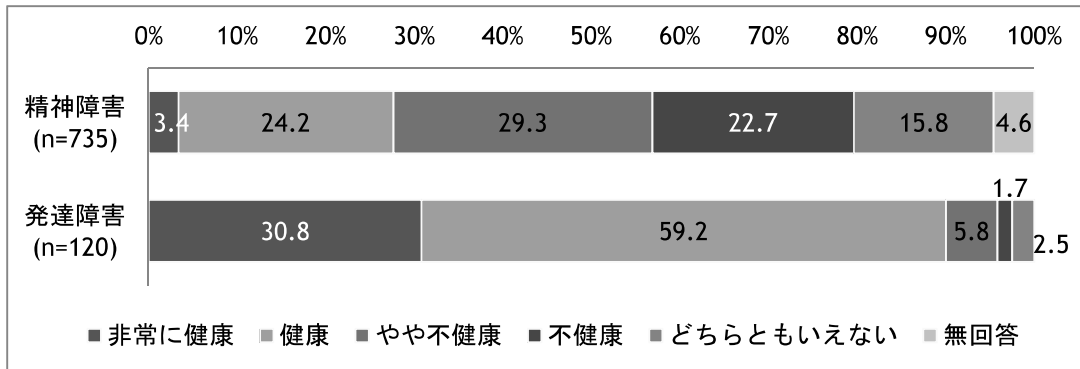
### 3. 健康状態について（精神障害者・発達障害者のみ）

「やや不健康である」「不健康である」を合わせると、精神障害者の半数程度が現在の健康状態を不健康と判断していた。一方、発達障害者については、9割程度が「健康である」と答えている。

日常的に健康を管理している人は、精神障害者が「自分自身」という回答が多いのに対し、20歳未満が多く含まれていた発達障害者では、「母親」が8割以上を占めていた。健康維持のために行っていることとして、食生活への配慮と、規則正しい生活をする事が多く挙げられている。

#### 1) 現在の健康状態

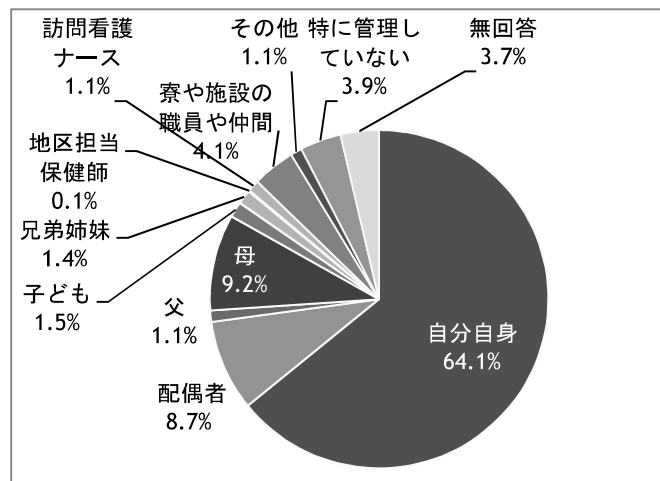
精神障害者の半数程度が現在の健康状態を不健康と判断していた。一方、発達障害者については、9割程度が「健康である」と答えていた。



#### 2) 日常的に健康を管理している人

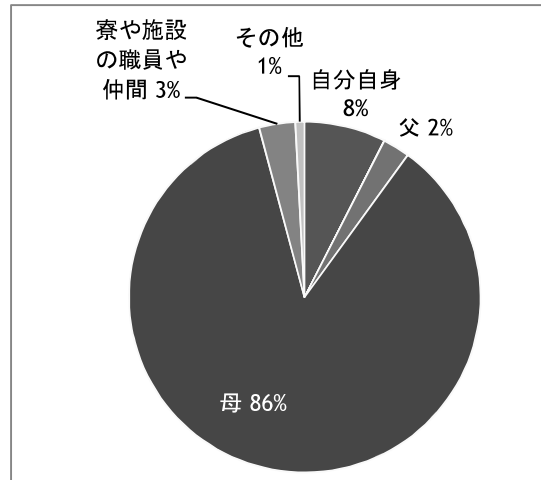
##### ① 精神障害者

(n=735) (%)



② 発達障害者

(n=120) (%)



3) 健康維持のために行っていること

健康のために行っていることとして、栄養のバランスなど食生活への配慮と、睡眠を十分にとり規則正しい生活をする事が多く挙げられていた。

〈複数回答〉 (%)

	精神障害 (n=735)	発達障害 (n=120)
栄養のバランスなど食生活に気をつけている	43.9	50.0
睡眠を十分にとり、規則正しい生活をしている	43.3	65.8
タバコ、酒、コーヒーなどを控えている	22.0	5.0
体の具合が悪いときは、すぐ医師に相談している	38.0	24.2
保健薬、漢方薬などの市販薬や栄養剤などを飲んでいる	13.5	4.2
健康診断の受診を心がけている	19.6	5.0
散歩や体操など、日頃から体を動かしている	23.8	20.0
運動、スポーツをしている	9.9	15.8
精神面での安定を心がけている	42.0	18.3
その他	5.0	0.0
特に何もしていない	18.1	19.2
無回答	1.8	0.8

## 4. 医療機関の利用について

発達障害と診断されたのちの継続受診については、発達障害者の場合、55%が障害の専門医を受診しているが、障害児や知的障害など他の障害と重複する障害者の場合、4割程度が「発達障害について受診していない」と答えている。受診科としては、障害児と発達障害者では、精神科や小児精神科ではなく、小児科の割合が約半数を占めており、具体的には「薬物療法」を受けているケースが多くなっている。

回答者のうち「かかりつけ医」を決めている人は7～8割程度である。しかし、精神障害者と難病患者を除き、「かかりつけ医」が障害の専門医である割合は3割程度となっている。

難病の専門医を受診している患者の80.9%は、市内の専門医の診察を受けている。

### 1) 発達障害者の医療機関の利用

知的障害との重複があるケースや障害児では、発達障害について受診していない人の割合が4割と高い。診療・支援としては薬物療法が最も多くなっている。

#### ① 診断後の継続受診・支援の状況

	調査票の障害種別					合計 (n=546)
	身体障害 (n=41)	知的障害 (n=170)	精神障害 (n=102)	障害児 (n=124)	発達障害 (n=109)	
発達障害の専門医を受診している	7 (17.1%)	43 (25.3%)	39 (38.2%)	44 (35.5%)	60 (55.0%)	202 (36.4%)
専門医ではない医師を受診して、発達障害に関する診療や支援を受けている	4 (9.8%)	23 (13.5%)	22 (21.6%)	12 (9.7%)	12 (11.0%)	73 (13.2%)
その他	3 (7.3%)	27 (15.9%)	20 (19.6%)	13 (10.5%)	18 (16.5%)	81 (14.6%)
発達障害について、受診していない	9 (22.0%)	68 (40.0%)	18 (17.6%)	51 (41.1%)	18 (16.5%)	164 (29.5%)
わからない	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)
無回答	17 (41.5%)	9 (5.2%)	3 (2.9%)	4 (3.2%)	1 (0.9%)	34 (6.1%)

備考) 難病患者の中で発達障害との重複はいないため、表に含まれていない。

②継続受診・支援を受けている場合の診療科

	調査票の障害種別					合計 (n=374)
	身体障害 (n=41)	知的障害 (n=93)	精神障害 (n=81)	障害児 (n=69)	発達障害 (n=90)	
小児科	4 (9.8%)	24 (25.9%)	4 (4.9%)	33 (47.8%)	43 (47.8%)	108 (28.9%)
小児神経科	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.2%)	6 (8.7%)	7 (7.8%)	14 (3.7%)
神経科	2 (4.9%)	5 (5.3%)	3 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (2.7%)
心療内科	7 (17.1%)	12 (12.9%)	16 (19.8%)	2 (2.9%)	4 (4.4%)	41 (10.9%)
小児精神科	0 (0.0%)	2 (2.1%)	0 (0.0%)	4 (5.8%)	9 (10.0%)	15 (4.0%)
精神科	2 (4.9%)	30 (32.2%)	53 (65.4%)	5 (7.2%)	12 (13.3%)	102 (27.2%)
その他	8 (19.5%)	8 (8.6%)	2 (2.5%)	10 (14.5%)	8 (8.9%)	36 (9.6%)
わからない	5 (12.2%)	5 (5.3%)	2 (2.5%)	1 (1.4%)	2 (2.2%)	15 (4.0%)
無回答	13 (31.7%)	7 (7.5%)	0 (0.0%)	8 (11.6%)	5 (5.6%)	33 (8.8%)

備考）難病患者の中で発達障害との重複はないため表に含まれていない。

③受診・支援を受けている場合の内容

〈複数回答〉

	調査票の障害種別					合計 (n=374)
	身体障害 (n=41)	知的障害 (n=93)	精神障害 (n=81)	障害児 (n=69)	発達障害 (n=90)	
知能検査の実施	3 (7.3%)	14 (15.1%)	15 (18.5%)	23 (33.3%)	21 (23.3%)	76 (11.8%)
二次的障害への対応	6 (14.6%)	6 (6.5%)	14 (17.3%)	8 (11.6%)	10 (11.1%)	44 (6.9%)
薬物療法	13 (31.7%)	44 (47.3%)	50 (61.7%)	21 (30.4%)	43 (47.8%)	171 (26.7%)
言語療法	0 (0.0%)	7 (7.5%)	1 (1.2%)	18 (26.1%)	9 (10.0%)	35 (5.4%)
心理療法	1 (2.4%)	7 (7.5%)	8 (9.9%)	14 (20.3%)	11 (12.2%)	41 (6.4%)
カウンセリング	3 (7.3%)	20 (21.5%)	32 (33.5%)	14 (20.3%)	35 (38.9%)	104 (16.2%)
家族の支援 (カウンセリングや 育て方指導)	1 (2.4%)	16 (17.2%)	6 (7.4%)	19 (27.5%)	29 (32.2%)	71 (11.0%)
その他	5 (12.2%)	4 (4.3%)	8 (9.9%)	4 (5.8%)	15 (16.7%)	36 (5.6%)
わからない	8 (19.5%)	7 (7.5%)	5 (6.2%)	5 (7.2%)	3 (3.3%)	28 (4.3%)
無回答	12 (29.3%)	13 (14.0%)	1 (1.2%)	6 (8.7%)	2 (0.2%)	34 (5.3%)

④発達障害の専門医以外の受診で困ったこと

■医師、看護師が理解が乏しい場合があり、不快な思いをすることが多い。
■障害の特性を一から説明しないといけない。
■障害が理解してもらえず、わがまま、変な子供に見られる。
■診断までの待ち時間が長いと落ち着いて待てないことがある。
■人によって発達障害の程度は違うので寄り添った治療（何が出来る、できないなど）を分かってもらえない時がある。
■ボーダーの診断を受け、はっきりしない症状も含め、説明が難しい。
■耳鼻科を受診したいが耳をさわられることが嫌で診てもらえない。
■薬を処方するだけで問題が解決しない。
■自分の状態を十分に伝えられないこと。聞きたいことを質問できない時があること。
■主治医がころころ変わる。
■専門用語で病状がわかりにくい。
■内科に於いて、パニック障害や過呼吸症など誤診、誤処方が多い。
■何回も同じことをきかれるとどうしていいかわからない。

⑤発達障害の専門医以外の受診で希望すること

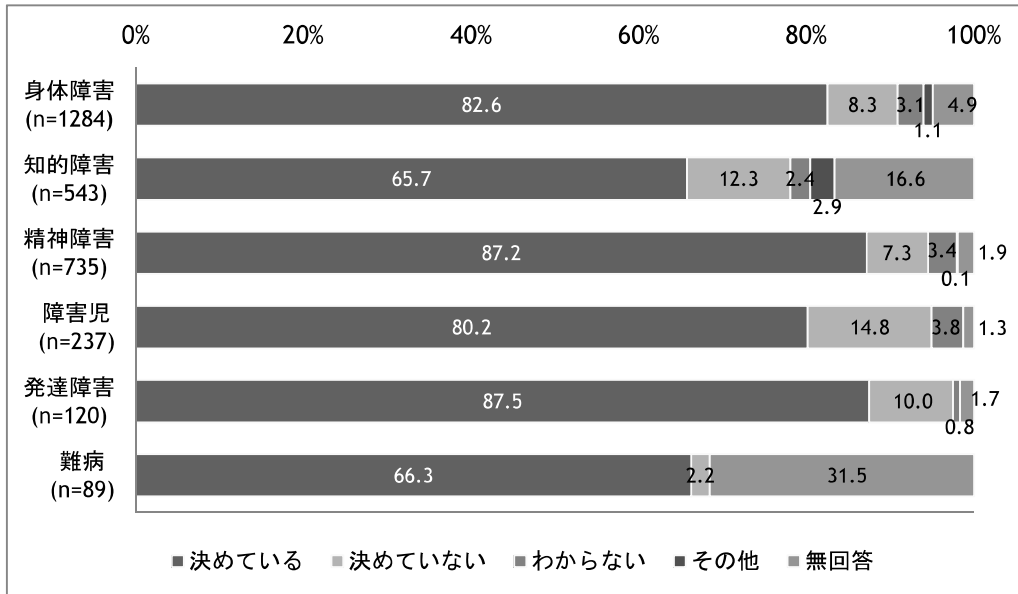
■医師・看護師が発達障害の特性を大まかでいいので理解してほしい。
■個別の待合室などがあると良い。
■小児の精神科医が少ない。
■初診の問診票などに発達障害の有無の項目を入れてほしい。
■専門医が作成した他医師への障害児の特性を書いた説明書カードを作ってほしい。
■できるだけ、待ち時間が短くすむようにしてほしい。
■優先的に待ち時間なしで診てもらえるとありがたい。
■もう少しわかりやすく、丁寧に説明してほしい。
■問診や診察のときに、具体的な質問をしてもらいたい。
■患者さんが少ない時間帯を知らせてほしい。
■視覚で説明し、個別的に対応できるようにしてほしい。



2) 「かかりつけ医」について

回答者の7～8割程度が「かかりつけ医」を決めていると回答していた。しかし、「かかりつけ医」が障害の専門医であるケースは精神障害者と難病を除き、3割程度にとどまっている。

① 「かかりつけ医」の有無



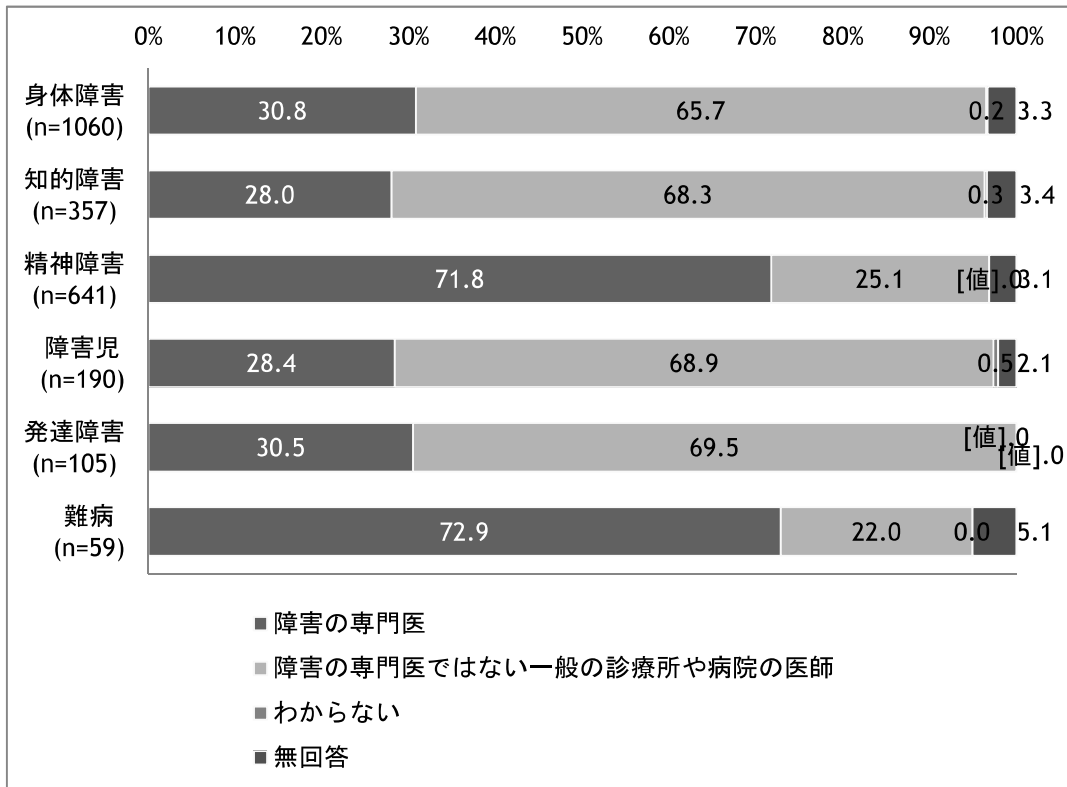
【「かかりつけ医」の有無（難病と認定されている人のみ）】

(実数)

		決めている	決めていない	わからない	その他	無回答	合計(人)
調査票の障害種別	身体障害	120	4	2	4	1	131
	知的障害	17	2	3	1	2	25
	精神障害	19	3	1	0	0	23
	障害児	20	2	1	0	1	24
	難病	59	2	0	0	28	89
合計(人)		235	13	7	5	32	292

② 「かかりつけ医」は障害の専門医かどうか

精神障害者と難病患者を除き、障害の専門医であるという回答は3割程度であった。



【「かかりつけ医」は障害の専門医かどうか（難病と認定されている人のみ）】

(実数/人)

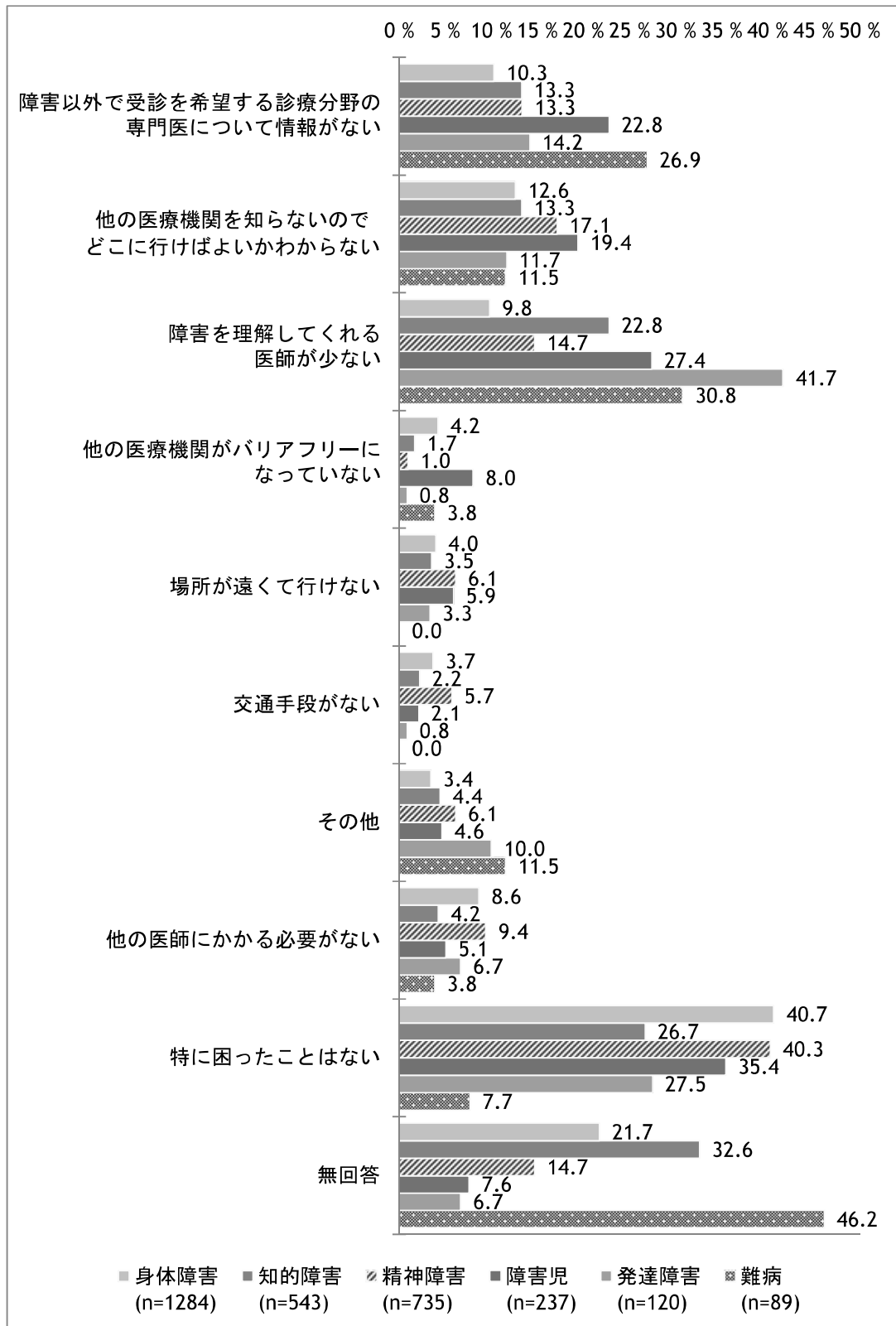
		障害の専門医	障害の専門医ではない 一般の診療所や病院の医師	無回答	合計
調査票の 障害種別	身体障害	65	53	2	120
	知的障害	7	9	1	17
	精神障害	13	6	0	19
	障害児	9	11	0	20
	難病	43	13	3	59
合計		137	92	6	235

② 「かかりつけ医」や障害の専門医以外の診察で困ったこと

「かかりつけ医」や障害の専門医以外の診察で困ったこととして、発達障害者や難

病患者、障害児においては特に、障害に対する理解が十分でないことを指摘する回答が多くなっている。

〈複数回答〉



3) 難病専門医について

難病患者が難病の専門医の診察を受けている場合、その8割程度は北九州市内の医師であった。また、患者会や家族会などを通して、8割程度が同じ疾患を持つ人との交流の機会を持っていた。

①難病専門医の診療科

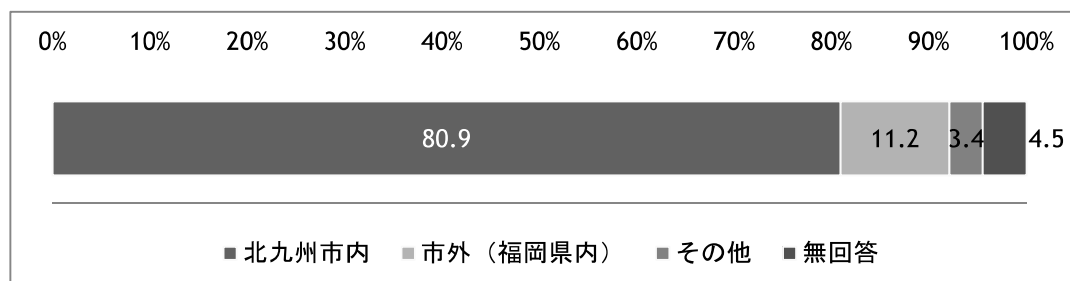
(n=89)

診療科	実数/人	%	診療科	実数/人	%
(小児)神経内科	1	1.1	腎臓内	1	1.1
胃腸内科	1	1.1	腎臓内科	12	13.5
外科	1	1.1	腎臓病	1	1.1
外科、胃腸科、肛門	1	1.1	腎臓病透析	1	1.1
眼科	5	5.6	脊椎脊柱外科	1	1.1
呼吸器内	1	1.1	第一内科	1	1.1
小児科	2	2.2	内科	13	14.6
小児外科	1	1.1	内科 リウマチ科	1	1.1
消化器センター	1	1.1	内科 膠原病科	1	1.1
消化器科	3	3.4	脳神経内科	1	1.1
消化器外科	1	1.1	泌尿器・腎臓内科	1	1.1
消化器内、外科	2	2.2	泌尿器科	5	5.6
消化器内科	4	4.5	膠原病 リウマチ科	1	1.1
神経内	1	1.1	膠原病	1	1.1
神経内科	9	10.1	膠原病科	2	2.2
腎センター	1	1.1	膠原病内科	2	2.2
腎臓	1	1.1	記入なし	8	9.0

②難病専門医の病院所在地

難病専門医の受診をしている場合、病院は北九州市内であることが多い（80.9%）。

(n=89)

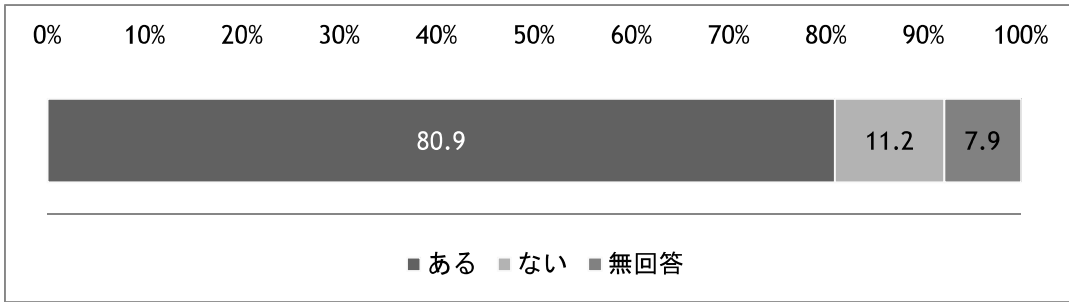


「その他」の具体例 ■北海道 ■岡山県

③同じ疾患をもつ人との交流について

【交流の機会の有無】

(n=89)



【交流の場の具体例】

〈複数回答〉(n=89)

